

令和 7 年度 新潟大学 経済科学部 学 校 推 薦 型 選 抜 試 験 問 題	総合問題 解答例
[I] 設問 1 【解答例】フラクタルとは，自己相似性を示す形状で，分割されると小さな構造が現れる。これにより複雑なパターンが生じ，正規分布と異なり，極端な事象が頻繁に発生する特徴がある。（80字） 設問 2 【解答例】コンストラクタル法則の原理は，「流れがあり，かつ自由な領域があるのなら，より速く，よりなめらかに動くように進化する」というものである。例えば，地球上の生態系では，太陽からの熱量の違いによって水や空気の流れが生まれ，それに合わせて生物が進化している。（124字） 設問 3 【解答例】自由と階層性が一体のものとは，個々の要素が自由に動きながら，それらが相互作用して階層構造を形成し，より効率的に動くことを指す。例えば，河川が自由に流れる中で，支流が形成されて階層化されることで水を効率的に海に放出するように，自由な動きが階層性を生み出す。（127字） [II] 設問 1 【解答例】 桐島ら新左翼の行動が広く世論の支持を受けたことはなかったうえに、彼ら彼女らの存在が急速に世間から忘れ去られたから。（57 字） 設問 2 【解答例】 田中角栄やその後続にあたる政治家たちによる、公共事業や企業内福祉などを通じて、経済成長の果実を日本社会の隅々にまで分配し、体制の「インサイダー」の数を増やしていく思想と、その思想が作り上げた体制は、平成と令和の時代には絶えざる崩壊期を迎えたということ。（126 字）	

令和7年度 新潟大学 経済科学部

総合問題

学校推薦型選抜
試験問題

解答例

設問3

【出題意図】

グラフの内容から、正規の職員・従業員の数は平成以降の時代に必ずしも減少し続けているわけではないということを読み取ったうえで、「正規雇用の『企業戦士』の数が減り続けた」という本文の記述をどのように解釈したか、その理由も含めて明瞭に説明できるかどうかを問う。

本文における「正規雇用の『企業戦士』の数が減り続けた」を正しい指摘だと解釈するならば、その理由として「正規雇用の『企業戦士』」はグラフにおける正規の職員・従業員と等しい集合ではないことを説明することが考えられる。この例として、正規雇用の「企業戦士」とは正規の職員・従業員全てを指すのではなく、勤務地、職務、労働時間などの無限定性を前提として強力な雇用保護と企業内福祉という恩恵が与えられている、正社員の一部のことを指している可能性を理由として挙げることがあるだろう。あるいは、「正規雇用の『企業戦士』の数が減り続けた」を正しい指摘だと解釈するうえで「数」という単語の用いられ方が絶対的な数量ではなく、（被）雇用者全体に占める相対的な割合を意味している可能性を指摘しても問題ない。

本文における「正規雇用の『企業戦士』の数が減り続けた」を正しい指摘でないと解釈する場合、グラフの内容をもとに説明することを求めている。対象にあたる「正規雇用の『企業戦士』」と、期間にあたる「この間」をどのように読み取ったかを説明したうえで、グラフの内容から実際に「正規雇用の『企業戦士』」が減少していないことを明瞭に説明することが望ましい。

このほか、正しいかそうでないか判断する論拠が十分でないという回答も、グラフの内容から読み取れることが適切に記されたうえで、論拠が十分でないと考える理由の説明が明瞭かつ的確であれば、問題ない。